

意見交換会の概要

出席技術者からの意見、中部地方整備局・愛知県・名古屋市の発言を纏めました

週休二日制の実施について

○週休二日相当で実施したが、協力的な下請けであったので順調に施工できたが、下請けは、現場が休んでいるときは他の現場へ行っていた。

○舗装工事であったが、二日完全休暇にすると、1次切削で雨が降ったとき、二日開けることにより1次切削で解放した場合雨が降れば2次切削の間に飛び石が懸念され、第3者災害が発生する恐れがある。月曜日に雨が降ると予想されるとき土日休みとなると、金曜日にセメントの段取りでいつGOを出すか、夜積んで朝おろすとした場合、雨が降った時の保管をどうするかが問題となる。

○下請け会社の作業員は日給月給で、手取りが減ることになるので土日休みとすると他の現場へ行くことになる。土日休みさらに雨で休みとなると収入がなくなることから、他の現場でなく他の業種に変わっていくのではと懸念される。維持修繕工事の場合、実質電話対応が365日24時間対応を求められる。冬季雪氷作業は12月から約120日間は、毎日連絡が来るので常に仕事をしなくてはならない。また維持修繕の中に道路巡回も365日求められる。巡回頻度を見直すか交代要員の費用を見るか選択が問題となる。

○着手後協議が整っていないとかで3カ月程度工事に入れなかったが、工期に余裕があったから今のところ週休二日は継続している。所属会社は隔週二日休みなので、隔週は有給を使っていた。下請け会社は、ほとんど土日は、違う現場で働いている。見積もり段階では通常であったが、週休二日となるとの労務単価は上がるといわれている。民間は週休二日でないので、下請けは民間へ行っているので成り立っている状況から完全週休二日は難しいのかなと思う。社内でも建築は週休二日制ができていないので社内でも対応が必要。

○現場全体で週休二日が確保できても、工種別に見ると天候に左右される工種は、先行して作業を進める形となるので、雨が降ったら土日の作業となるのが実情で、七分の二を確保するのは難しい。下請けは土曜日には他の現場へ行くのが実情。

○整備局 国交省では積算に用いる設計労務単価を前年の労務費調査に基づいて改定しています。平成25年からは社会保険料相当分も含め技能労働者の単価を政策的に上げてきています。平成24年からこれまでに43%上がっています。また、今年度から4週8休実施の場合で、労務費を5パーセント割り増しすることとしています。これらの取り組みによって実際に技能労働者に支払われる賃金が上がって、労務費調査の結果も上がり、翌年の設計労務単価もアップしていく好循環となり、これを維持していくことで、技能労働者の所得水準も上がり、土曜日を休みにしていくことができるようになると思っています。また、現在、建専連さんでは、技能労働者の社員化の検討もなされています。

○週休二日の現場は給料下がるという話を聞く。改革で給料が上がるのかなという期待感はあるが、給与水準が低いのが我々の職種であるので、休日出勤はありがたいのが現状です。杭施工で資材、作業班が他に取られて他の業者の調達が可能でなく。現在の作業班がそのまますぐ隣の作業の繰り返しで、日進量で稼がざるを得ず土日施工となる。週休二日と言うと嫁からも給料下がるのと言われる位ですので給料の目に見える底上げは切実な問題です。

○現場は週休二日であるが、会社が土曜日出勤で、私も出勤をしていました。作業員も土曜日仕事ができないと他の現場で仕事をしていました。工程上1時間でも作業がしたいとの現場からの申し出もありましたが協力をお願いしました。休みが取れることはありがたいのですが、給料の面からは休日手当が有難いが、現状まだ週休二日現場が少ないので、たまに週休二日の現場があると、他の現場の人と交代で休みを取るなど調整をとりながらできたのでそちらからも喜ばれ、週休二日に関しては大変良いと思います

○受注者希望で行ったのは、まず減点がなく、達成できれば加点となることでチャレンジできた。あと、休日手当も魅力であるが、それ以上に今回は子供、家族とのふれあいの機会が持てることであった。作業班も下請会社が週休二日を行っているところからは歓迎されたが、あとの作業班は土曜日他の現場へ出ていたのが現状。

○整備局 現在は週休2日の発注者指定工事であっても、結果として達成できなくてもペナルティーはありません。また、会社自体の週休二日制について業界団体の経営者の皆さんとの意見交換会で話題となることがありますが、「民間受注の多い建築部門とのバランスがあり難しいことはあるが土木部門から週休二日を進めたい」との声はお聞きします。会社自体が週休二日となった会社では、月給は変わらず、土曜日に働くと超過勤務で処理されると聞いています。

通年の維持工事は週休二日の対象工事としていません。維持工事では現場責任者に休みが無く大変であることは承知しています。受注企業へは責任者一人に任せるのではなく、交代要員の確保や会社としてのバックアップ体制を取って頂くようお願いしています。また、維持工事の将来的なあり方として、複数企業のJVで受注してもらい分担するなど現場の技術者の負担を軽減する良い方法が無いか省内で検討しています。

○維持修繕では4人から6人体制に移行して負担軽減を検討しているが、雪氷となると連絡者が複数となると、連絡が輻輳してしまう、センターや事務所からの連絡もこちらの交代勤務を承知している人もない人もおり情報が錯綜するので受信は一人にしないと不都合が生じる時がある。残業については上限ペナルティーの話が出るが、大雪の場合どうするのかなどの対策を講じる必要がある。上限に達したよと言われても、上限に達したから出なくてもいいのかと言えるのか。そのあたりの議論も必要。

○整備局 全くそのとおりで、建設業における時間外労働規制の見直しについて「働き方改革実行計画」の見直し内容でも災害時の時間外労働の取り扱いについて議論がなされています。

○会社は週休二日となっているが、現場はそうなってはいません。隔週とか毎週土日勤務とかですが、土曜日休みの場合、やはり下請けの作業班は他の現場へ行くのが現状です。専門性の高い業者は、全国区から集まっているので、土日休みですと嫌な顔をされるのが実情です。現在は民間工事で週休二日は実施できていないので、官公庁の工事で一般的になってくれれば民間工事にも意識が波及してくれるのかなとも期待しています。

○休日の手当がつかないので、個人的には週休3日でも家族とのことも思えば、いいのかなとは思いますが、現場の下請けの人たちは日給月給の人が多いため、月給制に変えないと難しいのかなと思う。現場も元請は何とか達成できるのですが、下請けを含めると難しいのが現状です。

○個人的には会社として休日手当が出るわけではないので週休二日はほぼ達成できたが、下請とは根気よく週休二日の理解を求めてきたが、やはり土曜日はほかの現場へ出かけているのが現状です。がこれは時代の流れでもあるので進めてもらいたい。今入社してくる若い人たちは、給料面ではなく、休みがないとか、転勤したくないとかと求めているものが違うのでこのまま進めていってもらえるといいのかな。技術者の就業希望が減ってきているなか、休みに関してはこのまま進めてもらえるといいのかな。

○今まで勤務していた土曜日に休むと書類の整理とかで残業をしたくなるが、育児で残業がままならないので自宅に持ち帰るのが現状です。皆さんの残業時間はどれくらいか？

○会社として、週休二日もそうですが、繁忙期と閑散期でメリハリをつけているので舗装部隊はこの時期仕事がないので休みが取れますので年度末に繁多となっても、閑散期に取れるということで苦にならなくなっている。しかし、若い人たちからはやはり休みたいという声大きい。会社としては完全週休二日に向けて進んでいるので休める現場であれば実施できるのかなと思います。達成できるかできないかは個々のモチベーションなのかなと思う。

生産性の向上について

○本年度から全現場で電子黒板を採用しますが、利点は、黒板が画面に表示され、写真などのデータが保存され必要な時にすぐ呼び出せるので大変便利。今までのように助手がい

らず一人でできること。立ち合いなどでも資料を持っていくこともなく出来形写真などのデータが出せること。立ち合い、検査の時も資料が見やすいなど現場の技術者からは好評であった。現場管理で帳票等すべてがデータで呼び出せることも便利。

○電子黒板は着実に進めているが、最初の段階でスマホの文字変換、経験不足など入る際に初期の障害が大きい。慣れれば写真の前置きなど操作性もよくなり現場としては良いのではと思う。デメリットとして臨機応変が難しい。立ち合い時チョークであれば、思い描いたことをその場でさっと手書きで表現できる。また、舗装の場合スピーディーに動くので、写真の準備に結構手間がかかる。ASPを使うことにより従前は遠隔地に高速など経路で持参していたものがメールで送るとかASPで提出もできるので、移動時間のロスがなくなるなど生産性の向上という点からの利点が多いものがある。記録をデータ化しすべてをコンピューター任せとすると、以前の杭の偽造でも議論があったが、実際セメントミルクの注入記録用紙もすべてコンピューター任せとすると実際だれがどのように確認したのかということもあり、自分でサインとか、気づいた点もあるのですべて電子化というのも問題があるのかと思う

○電子黒板の普及はわが社ではまだまだですが、ASPの話ですが、以前現場で専門官が現場でそのまま承認していただいていたが大変ありがたかったことがありました。

○拡張工事のため、事前に設計の工種、数値が定まらない中での準備が困難であった。夜間工事の場合ライトの部分で写りづらいところがあった。取り込めればそのまま出来形の帳票も作成できるなど使いだせば非常に便利だと思います。ASPだと登録して承認までペーパーレスが良いが、承認が下りないと次の人が見られないので、技術員で注文がついて否認され止まると係長は承知しないので出てこないねと言われても係長はそれでいい良いのに技術員が止めていることになるので、提出したら上が確認できるようになればとおもう。

○電子化は進んでいないので写真図面の電子納入に留まっているが皆さんの意見を聞いていると使い勝手もあると思うが採用できるか否かも含めて会社へ帰ったら話してみたい。

○最近使い始めたが、工事延長があるところを重い黒板持参で歩くこともなく、鉄筋、狭隘部の写真もスマホだけだから活用できるし、写真の整理も現場から帰ってソフトを使えば時間短縮ができることも便利です。生産性向上に関していえば、新技術で機械継ぎ手の採用など活用して国の中では普及しているのかとは感じられるが、県や市の場合まだ進んでないとも聞いていて生産性向上については現場でもまちまちなのかと思う。ASPの掲示板の利用でデータ、様式を他の現場とも共有できるので便利です。

○まだ使ってはいないが、電子黒板は舗装工事には不向きかなと感じた。ASPでできる書類できない書類がある。社印が必要な書類もあり、印を押してから再度ASPに乗せる必要があるなど

○タブレット端末を使っている現場もあるが、発注者も担当によって書類の整理をしっかりしてもらえると、してもらえない人は検査前に今までの書類を纏めて出してくるのでこちらで整理してお渡しして纏めてもらうことがある。

○電子黒板は、使えば一人で対応できることもあり、便利でよいと思う。社内的には半分程度は使っている。ASP打ち合わせ簿はそのままダウンロードで紙ベースでないのかかなり省力化されているのではないか。契約関係書類は紙ベースとなるのでデータ化されるとよいと思う。

○使ったことはないが、若い人たちは有効的に使ってくれている。写真整理とか出来形管理表とかの作り直しなど手間は確かに省略し時間短縮にはなっているが、人と人との対面での話し合いも必要な場合も多々あると思うので、ASPも時間短縮には有効ですが、一概にはよいとは言いきれないと思う。事務所決裁でも見てもらえてないのか承認が遅いことが多々ある。メールで送ってくれと言われることもあり徹底してもらえるとよい。

○黒板を持ってもらわなくても済むことは大変楽で有難い。写真整理も事務所に帰ってから工種別に整理する手間が省略出来て便利です。当社では前向きに電子黒板を進める方針です。CIMが必須になってくるようですが、設計段階で3Dデータが作られることがない

ので施工業者で作るので負担増が現状になって時間がかかる。共通仕様書は作らなくてもよいとなっているが提示を求められるので結局作ることになる。特車の追跡に関して資料作成で追跡して写真を撮ることに時間と労力をとられる。タコグラフの提出のみではどうなのかと思う。

○電子黒板の感想は、事前の準備が必要となることで、若い人たちにも設計書を見る機会と現場を見る機会が増えるのではと思います、労力をかけた分写真整理など楽になるので有効と思う。ASPでは金額によって紙で出すよう求められ取り込むのに手間がかかったことがあり、電子なら統一できると良い。

○重い黒板をもって走り回ったことを思うとスマホを持っていくことで楽になりました。現場にいながら図面で指示でき、生産性の向上には役立っている。

○整備局 皆さんに電子黒板はおおむね好評かなという印象で、事前準備に手間がかかるが慣れれば便利というお話も多かったが、現場作業の効率化に繋がる有効な手法であることを改めて認識しました。更なる普及に期待します。導入から5年になるASPについては受発注者間の情報共有に有効なものとして定着しました。本年度からバナーに工程共同管理システムを作り、発注者と受注者で「工程の見える化」を取り組みます。課題の早期共有と解決に向け有効なツールとしてコミュニケーションを密にし、受発注者間の円滑な工事進捗に役立つものです。是非、活用していただきたい。今後は段階確認、立ち合い等の時間調整や移動のロスを減らすため映像活用も考えています。現場でヘルメットにウェアラブルカメラとマイクを付けリアルタイムで遠隔で監督員と会話ができるシステムの導入を検討しています。また、皆さんからの意見が多い「作らなくてもよい書類」を現場の技術員が指示をするという件について、監督補助業務の仕様書で指示は監督職員が行うことを明記しました。添付書類が多いという特車関係の書類については、書類の削減に向け改善できる方法がないか検討しています。工事書類の簡素化のため「提出」から「提示」とした資料では、各社の独自様式などを活用していただき電子データで確認することで、既定のフォーマットでの提出は求めません。完成検査時に書類の見栄は関係なく検査官は施工管理、出来形・品質等の履行を確認する技術検査であることを周知しています。H31年度共通仕様書の改定を予定しているので、工事書類簡素化に関するご意見がありましたらお聞かせください。

○県 電子黒板は国に倣って県も実施しているが、ASP関係ですが、県内の中小の業者がついてこられるかどうかは別問題である。書類の簡素化については、県も重要であると認識しております。それらASP等を含めて県として今後の問題として考えています。国交省とできるだけ歩調を合わせていければと考えています。

○市 ASP等電子化されれば我々も便利であると認識はしているが、電子化の採用には規模の問題もあると思うが今後模索していきたいと考えています。書類の簡素化は、今後も推進していく。先ほど出ましたコミュニケーションをとりながら良いものを作る。

○熱中症対策でこまめな休憩を行うなど対策を取っているが、生産性との絡みもあるが猛暑のなか対策を考えているのか

○整備局 今年猛暑日が続いており危険な場合、工事の一時中止をかけて工期の延長を可能とする通知を発出した。現場には、休憩・水・塩の補給など猛暑対策の徹底をお願いしている。

○特車申請に時間がかかる。通行不可の経路があればHP等で開示してもらえると良い。

○局 国道については公表されているが市道部分で難しい面もあるが、申請の時、発注者にもその旨を連絡してもらおうと良いのではないかと